最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和８年度７月号

○ 概要

（１）　令和８年度７月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 7,575 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.9%）で、処方箋１枚当たり調剤医療費は 10,048 円（伸び率+2.1%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 2,022 億円（伸び率+1.6%）、薬剤料が 5,538 億円（伸び率+3.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 907 億円（伸び率▲7.0%）であった。（→P.4,5）

（２）　薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋１枚当たり薬剤料 5,516 円（伸び率+0.1%）を、処方箋１枚当たり薬剤種類数、１種類当たり投薬日数、１種類１日当たり薬剤料の３要素に分解すると、各々2.78 種類（伸び率▲0.0%）、29.6 日（伸び率+3.1%）、67 円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.8,9）

（３）　内服薬の薬剤料 4,158 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+36 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の 793 億円（伸び幅▲14 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+60 億円（総額 646 億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額（伸び幅）	総額順（総額）		
		１位	２位	３位
全年齢	4,158 億円 (+36 億円)	39 その他の代謝性医薬品(793 億円)	42 腫瘍用薬 (646 億円)	21 循環器官用薬 (616 億円)
0 歳以上 5 歳未満	16.6 億円 (▲0.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.6 億円)	61 抗生物質製剤 (1.9 億円)
5 歳以上 15 歳未満	104.3 億円 (+5.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (32.6 億円)	44 アレルギー用薬 (32.5 億円)	39 その他の代謝性医薬品(9.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,600 億円 (+51 億円)	39 その他の代謝性医薬品(309 億円)	11 中枢神経系用薬 (305 億円)	42 腫瘍用薬 (223 億円)
65 歳以上 75 歳未満	796 億円 (▲24 億円)	39 その他の代謝性医薬品(175 億円)	42 腫瘍用薬 (162 億円)	21 循環器官用薬 (130 億円)
75 歳以上	1,641 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (303 億円)	39 その他の代謝性医薬品(298 億円)	42 腫瘍用薬 (257 億円)

（４）　処方箋１枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 10,048 円（伸び率+2.1%）で、最も高かったのは高知県（11,933 円（伸び率+2.1%））、最も低かったのは佐賀県（8,791 円（伸び率+1.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+6.1%）、最も低かったのは山梨県（伸び率+0.5%）であった。（→P.31~32）

≪後発医薬品の使用状況について≫

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標）注 1)	92.3 %	+1.0 %
薬剤料ベース（新指標）注 2)	75.2 %	▲2.8 %
後発品調剤率	76.0 %	▲3.8 %

注 1)〔後発医薬品の数量〕/（〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕+〔後発医薬品の数量〕）で算出。

注 2)〔後発医薬品の薬剤料〕/（〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕+〔後発医薬品の薬剤料〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲7.0 %	+3.4 % (15 歳以上 20 歳未満)	▲14.1 % (80 歳以上 85 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	75.2 %	86.0 % (100 歳以上)	67.3 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	92.3 %	95.3 % (0 歳以上 5 歳未満)	91.5 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額（伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	763 億円 (▲78 億円)	21 循環器官用薬 (205 億円)	11 中枢神経系用薬 (135 億円)	39 その他の代謝性医薬品(92 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.2 億円 (▲1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (2.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	62 化学療法剤 (0.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	13.6 億円 (▲2.6 億円)	44 アレルギー用薬 (7.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	270 億円 (▲21 億円)	11 中枢神経系用薬 (62 億円)	21 循環器官用薬 (59 億円)	39 その他の代謝性医薬品(33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	147 億円 (▲19 億円)	21 循環器官用薬 (48 億円)	39 その他の代謝性医薬品(21 億円)	11 中枢神経系用薬 (19 億円)
75 歳以上	328 億円 (▲34 億円)	21 循環器官用薬 (97 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	33 血液・体液用薬 (42 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,203 円	1,532 円(北海道)	1,026 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲7.7%	▲5.5 %(神奈川県)	▲10.7 %(島根県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	92.3 %	94.6 %(沖縄県)	90.0 %(徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	75.2 %	78.9 %(島根県)	70.5 %(徳島県)
後発医薬品調剤率	76.0 %	79.1 %(秋田県)	73.5 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

〇審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。

〇令和８年度７月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約100%である。